

「事実は小説より…」2

平山征夫

品のない話は前回で終わり、今回は一転品のよいお話を書こうと思う。なぜならこの稿の冒頭に触れたように両陛下とのエピソードを書くのだから・・・。その前に前回紙数の関係で載せきれなかった少し面白くてちょっと悲しい話を書こう。本当はこういう話が一番書きたいのだ。某企業の社外取締役をしていた時(昨年六月で退任)体験した話だ。ひと月振りに取締役会でお目に掛かったOさんの頭部(殆どにヘアーはない)に見事なひっかき傷があった。」どうし

たのですか」と聴くと「飼いだに噛まれたのではなく引っ掻かれたのです」とのこと。Oさんは飼い犬と一緒に寝ているのだが、どうも主人を起そうと引っ掻かいたようだとのこと。それにしても見事な引っ掻き跡だと妙に感心してこの話を犬好きの友人にしたら、彼曰く「飼い犬がいきなり主人を引っ掻くことはない。多分その前に起こそうと顔を舐めたはず。でも原因は犬に何かストレスがあったのでしよう」とのこと。Oさんにその話をすると「そういえば舐めていたなあ。寝ぼけてこちらが無視していたが…。ストレスはわかるね。ずっと散歩に連れて行ってなかったからなあ」とのこと。

数か月前Oさんは突然奥さんを失くされた。弥彦山に行って帰ってきたその晩「疲れたから先に休む」と言ったまま急逝されたのだ。愛妻を失って呆然としていたOさん、それでも奥さんの残されたレシピを見ながら料理に取り組んだり孤軍奮闘していたが、専ら奥さんの役割だった飼い犬の散歩までは手が回らなかったのだ。Oさんの頭部の傷は暫くして治ったが、お逢いする度に「犬の散歩はされていますか」と聴く。犬も奥さんがいなくなつてさぞ淋しかったのだろう。愛する人を失くしたOさんとワンちゃんが励まし合いながら散歩する姿を思い浮かべている。

知事を三期十二年勤めたが任期残り三年位という頃から悩ましい課題を抱えていた。それは平成十三年が過ぎて天皇陛下が行幸されていない県が三県残っており、その中に本県も含まれていたのだ。宮内庁では何とか機会を見つけようとしていたが、なかなか国体のような行幸行事が無く残ってしまっていた。皇太子殿下には何度か行啓頂いたし、ほかの皇族の方々にも結構御成頂いていたが、行幸の機会に恵まれなかった。御成と言えば「花いっぱい運動」などで二年連続で御来県くださった紀宮様(現在は黒田清子様)には、二年目の昼食会場で休憩の折「知事さん、どうぞご遠慮

なく昨年の様に駄洒落を仰って下さい」と囁かれた。そう、皇族の方々の間で「新潟県知事は畏れもなく駄洒落を言う」ことでちよつと有名だったようだ。ひよつとすると宮内庁では要注意マークをつけていたかもしれない。

一番御来県くださったのは高円宮様だ。もともと新潟の酒蔵巡りをプライベートでされていたうえワールドカップなどの関係援もあって何度か御成頂いた。二〇〇二年はアマチュアオーケストラの全国大会（ステージで指揮を執られた）、サッカーの国際試合、そして在日大使館家族との田植え・稲刈り事業と立て続けにご来県され、何度もご一

緒させて頂いた。田植えの後の松之山温泉では夜中までお酒をご一緒した。夕食で十日町地域の山菜「木の芽（アケビの新芽）」（一般的に「木の芽時」と言うのとは異なるもの）を卵の黄身と醤油で食べられ、「この美味なるものは何ですか」と聴かれたのでご説明すると、「御代りを下さい。何ならもっと大きい器で…」とのご注文でしたので、どんぶりでお出しするとあつという間に平らげられて大満足のご様子。二次会に誘われてご一緒させて頂いたが、木の芽のことなど随分話が弾み、こちらもすっかり打ち解けて幾つか駄洒落が出てしまった。二時頃だったろうか殿下が急に「電話してくる」と

言う。「随分遅いけれど…」と思ったが、次の御言葉聞いて驚いた。「実は今日新潟の知事さんと会うと言ったら、紀宮に面白い駄洒落があったら教えてね」と頼まれていたんだ。忘れないうちに電話してくる・・・」。その年の十一月高円宮様は急逝された。才能に溢れオープンな飾らぬ人柄で多くの人から慕われていた。殊に皇太子殿下、紀宮さまからはお兄さんの様に慕われ頼られていた。通常タブーとされる皇族の政治発言も遠慮されなかった。本当に惜しんでも余りあるご逝去だった。紀宮様には、幻の鳥・アカシヨウビンを見たいとのことで三年魚沼に御忍びで（アカシヨウビンに

ばれないよう？）通われたが、事前調査では見つかったのに本番では見ることが出来なかった。

皇太子殿下に申し上げた私の世界遺産の駄洒落はちよつと話題になった。毎年、知事が五、六人、天皇陛下と皇太子殿下に地方の話題など御進講する。私は絶滅寸前の佐渡の朱鷺のことを御進講した。佐賀の知事さんは吉野ヶ里遺跡の話がされた。御進講の後天皇陛下からご質問があるのだが、御聡明な陛下のご質問は実に鋭く、核心に触れられる。佐賀の知事さんへのご質問は「吉野ヶ里や青森の三内丸山など、近年縄文の素晴らしき遺跡が発掘されているが、今

後まだこうした遺跡は出てくる
のでしょうか」だったが、緊張
気味の知事の答えは「はい！こ
れからも道路工事を一生懸命や
らせて頂きます」だった。「お分
かりになるかな？」と一瞬心配

したが、陛下は少しお考えにな
られた後「なるほど！」と短く
答えられた。昼食の折、私の正
面に座られた皇太子さまから
「遺跡と言えば近年日本でも世

界遺産に認定されるものが増え
てきましたが、世界遺産にはど
うすればなれるのですか」との
ご質問。佐渡金山で手を挙げよ
うと検討中だった私が一通りの
ルールをご説明、止せばよかつ
たのですが駄洒落好きの習性、
ご説明中に浮かんでしまった駄

洒落を言ってしまった。「東大寺
をはじめ日本の世界遺産が増え
ました。喜んでよいのでしょ
うが、あまり増えるとそれこそ遺
産（胃酸）過多になります」と
…。

皇太子さまのお隣で岐阜の知事
と別の話題でお話し中だった天
皇陛下も一瞬こちらを向かれて
「ん！」と小さくお声を挙げら
れた。

（平成二十九年七月三十一日）